

時間割コード	G2B40206	開講年度	2026				
授業題目	映像・人類学					担当教員	分藤 大翼
英文授業名	Visualizing Anthropology						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育13講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	大学DP						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					⇔	異文化に学ぶ方法と意義を説明できる。 自らの経験を吟味し、自分の思いや考えを表現することができる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
(4)授業の概要	人類学は異文化との出会いから始まります。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始めます。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを実現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴します。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、他者を理解し、共に生きる方法について考えます。						
(5)授業のキーワード	映像、文化人類学、異文化理解						
(6)授業計画	1. ガイダンス 2. 異文化との出会い 3. フィールドワークについて 4. 問うこと 5. 異文化の描き方 6. 「遠く」の暮らし 7. 耳を澄ます 8. まとめ 9. 音のない世界へ 10. 1980年代の東京 11. 「他人」の思いを聞く 12. 追憶あるいは不確かな私 13. 「自分」の思いを表現する 14. 世界との向き合い方 15. まとめ 授業アンケート						
(7)成績評価の方法	課題5回（各20点）。第6回、第8回、第12回の前、第15回の前と後に、それまでの講義内容に関する小レポートを執筆し提出してもらいます。						
(8)成績評価の基準	課題の評価の基準： 1.講義資料を十分にふまえて書いているか（5点満点）。2. 講義内容を理解したうえで書いているか（5点満点）。3.自分の興味関心や意見を明確に書いているか（10点満点）。 ※合計点が90点以上で「卓越している」、80-89点で「かなり上にある」、70-79点で「やや上にある」、60-69点で「合格の水準にある」と評価する。						
(9)事前事後学習の内容	eALPSに掲載される資料や情報を活用して自主的に学習すること。また、授業で紹介される作品や作家について調べ、授業で学んだ見方や聞き方、考え方にもとづいて、より多くの作品を視聴するように努めること。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	授業では、受講生が「視聴しづらい」作品をあえて選んでいます。それは、違和感を抱くような作品と出会うことが、異文化と出会うことになるからです。この点に留意した上で、授業で上映される作品をしっかりと視聴できるよう、体調を整えて受講するようにしてください。						
(11)質問、相談への対応	授業終了時に対応します。						
(12)授業への出席	全ての回に出席することを基本とします。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法により、補充を受けるための申請をおこなってください。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	授業時に紹介します。						